

本フレーム切手セットは、「台紙」および「てぬぐい」が付属します。

【台紙デザイン】

大鵬幸喜

第四十八代横綱 大鵬 (生誕) 納谷 幸喜 (1940-2013)

(1940年)昭和15年1月29日生まれ。身長187cm、体重108kg。本名は8男。
 樺太敷島郡敷島町出身で、北海道川上郡南茅渚町で育った。
 父業はウクライナ人のマリヤン・ポリシコ、母業は日本人の納谷幸吉である。
 納谷は母の姓である。
 (1950年代)に活躍し、ライバルといわれた他戸とともに「他戸 (はくはう) 時代」と呼ばれる
 大鵬興の黄金期を築いた。優勝32回、6連覇2回、45連勝などを記録し、昭和の大横綱
 と呼ばれ、格闘雑誌の表紙と飾られた事もある。
 幕内優勝32回は2009年(平成21年)当時、最多優勝記録である。横のなまこ子也と
 打ち立てたが、胸に入賞(1960年)から5回(1971年)までの12年間、自身のみ優勝
 (同は優勝した記録は「一軍進められたい記録」と呼ばれる。
 当時の子供の好きなものも食べた「巨人・大鵬・源次郎」という言葉からも、当時の大鵬の人
 気と知名度がわかる。また、西郷として有名なかつらの酒量は4杯程度で5月を全休。朝
 日の優勝会に出たというエピソードもあるほど。

1940年 5月29日、旧樺太(現・サハリン)小浜生まれ。
 1947年 小学1年生 管内町立管内西小学校
 小学2年生 南子町立南子西小学校
 小学3年生 南子町立南子西小学校
 小学4年生 夕陽町立南子小学校
 小学5・6年生 南子町立川湯小学校(現在廃校あり)
 1955年 弟子指導役(中学)を中絶し、二所ノ関部屋に入門(師匠:大鵬、伝真ノ志)
 9月場所 15歳で初土俵
 (1959年) 6月場所にて十両入り、「大鵬」と改名
 (1960年) 1月場所にて新大鵬。11月、岩崎所にて初優勝。場所後、大鵬は昇進(20歳)
 (1961年) 7月場所、9月場所は2場所連続優勝して(他戸と共に)21歳3ヵ月、当時最
 上歳年少)第48代横綱になる(入賞から1年10ヵ月)
 この晩、三賞+敢闘賞2回、技能賞1回、満塁1回
 1969年 幕内優勝(以後7回優勝も絶頂)
 1970年 日本プロレスがツタ大真
 1971年 現役引退
 優勝32回(史上最多) 2度の6連覇
 通算成績:872勝 182敗 136休
 幕内成績:746勝 144敗 136休
 (幕内勝率83.8%)
 30回優勝を記念して相撲協会より一代年寄り「大鵬」を贈られる
 12月に独立して「大鵬部屋」を設立し、後継の格闘に当たる
 1976年 創設法人、日本相撲協会 役員待遇 専務副理事長
 1977年 協賛者で取れたが、闘病のため引退
 1978年 創設法人、日本相撲協会 専務副理事長 地方地区部長
 1982年 ライオンズクラブ国際協会 入会式式次第
 1991年 弟子指導名誉勲章(第1号)
 1994年 創設法人、日本相撲協会 専務副理事長(公) 専務副理事長
 1996年 創設法人、日本相撲協会 役員待遇副理事長(公) 副理事長
 1996年 スポーツ功労者
 1997年 東京アスレチッククラブ、プロスポーツ賞
 2000年 北海道漁業庁賞
 2004年 秋の叙勲 従三位
 2004年 大鵬部屋を継承の異議を以て(大鵬部屋)継承
 2005年 創設法人、日本相撲協会 相撲博物館 副理事長
 2005年 スポーツ勲章(北海道新聞社)
 2008年 東京都港区名誉区民賞
 2008年 創設法人、日本相撲協会 名誉
 2009年 文化功労者
 2011年 友好勲章(ウクライナ)
 2013年 正四位勲位 従三位賞章

【手ぬぐいデザイン】

